



青島の風

青島日本人学校だより
令和2年2月17日
校長 金森孝子

臨時号 5

ピンチをチャンスに・・・

春節休みと臨時休校を合わせると、今日で休みに入ってから25日目になります。家の中の生活が続くと、直接、季節を感じることも少なくなってきました。そんな中、金曜から土曜、日曜にかけて、青島に雪が降りました。今、青島にいる子どもたちは喜んでいるだろうな、今日の日本の天気はどうか、学校だとすぐに雪合戦が始まるだろうな、など、とりとめのないことに思いを巡らしました。うっすらと雪化粧している青島の景色を眺めながら、コロナウイルスもこの雪の中に埋もれてなくなればよいのに、と終息を願わずにはいられませんでした。皆さんにお願いしている朝の健康観察では、青島教育局への報告開始以来、児童生徒、青島日本人学校関係者すべてに、体調変化がないという報告を、継続して続けることができています。皆さんの意識の高まりが、この結果につながっていると思います。ありがとうございます。

本日、ホームページ上で、3回目の在宅学習の課題の更新を行いました。青島日本人学校のカリキュラムに沿う形で課題を設定しており、教員たちは、より子どもたちが楽しく学習できるようにと、一人一人の顔を思い浮かべながら内容を考えています。そして、明日から、初めての試みとなるネットを介しての学年交流を行います。子どもたちの不安の解消や在宅学習のサポートが目的ですが、「新しいことへのチャレンジ」の側面も大いにあります。ネットを活用することはリスク面についての心配がありますが、先ずは、使用にあたっての決まりを厳守いただき、子どもたち、そして、保護者の方々と共に学校として大きな一歩を進んでいきたいと思えます。教員も在宅勤務になってから、ネット会議を開始し、その利便性や可能性を実感し、その機能を用いることに対してアグレッシブになってきました。ピンチをチャンスに。よく使われる言葉ですが、まさに、今がその時だと考えます。普段の学校生活の中ではなかなか取り組めないことに挑戦する、保護者の皆様のご協力と見守りをおねがいたします。

最後に、15日土曜日、早朝のNHK「この人に会いたい」で、国連難民高等弁務官を10年にわたり務められた「緒方貞子」さんの番組を見ました。その中で「乗り越えるためにある、危機とか難局は」「日本は、もっと広がりのある国になってほしい」という言葉がずっしり、胸に入ってきました。それぞれの場所で、今、頑張り踏ん張っている日本人が多くいます。(日本人だけではないですね。)現在、同じ長いトンネルに入っていますが、出口の明かりはきっと近い将来見えるようになると思います。今週も一週間、頑張っていきましょう

令和2年2月17日(月) 青島日本人学校長 金森孝子